

# 能登半島地震復興状況、約2年経過の見て歩き、能登町と珠洲市にて

2025. 09. 17

被災地における「子どもに遊び支援」をしに能登まで行った。地震後はや21ヶ月経過(約2年)、復興というよりは、住民退去で地域は野原となっている現状を見て欲しいのリクエストに応じて、能登町や珠洲市における復興状況を視察した。以下に、被災・復興状況について、能登町(柳田、松波)と珠洲市(正院他)を中心に現地の声をちりばめて記す。



能登町柳田地域；

健全な建物が結構多かったのには驚かされたが、壊れた建物はそのままのものもあり、その中で解体が進んでいる。当該地帯では、山地ゆえに、軟弱地盤の地震増幅といったことがなかっただけに、建物にはある程度の頑丈さがあれば、生き残ったといえる。元役場や公民館の無事も当然といえよう。



(1) 能登町見附

・恋路海岸の北東に位置する海岸にて、著名な軍艦島は両側面に斜面崩壊があったが、それでも凜と構えている。

・また、地震直後には周辺には多数の仮設トイレが所狭しと配置されていたが、今は完全に片づけられていた。



・見附海岸の南側平地では、傾いた電柱をそのままにして近接して新電柱を設置し、傾いた電柱を撤去ではなく新電柱に横架材とつなぐことで放置されていた。こちら一帯は皆そんな方式で傾斜柱が放置されている。



(3) 珠洲市域；

(3. 1) 正印地区；2023年の地震で大打撃を受けたのちに2024年の地震で完全にダウン。そんな激甚被害地では今は完全に損傷家屋は解体撤去され、一面の草原となっていた。当該地沿岸域の建物3軒は何事もなかったかのように凜と構えていた。理由は承継杭を多数打





ちこんだのが功を奏したということである。

(3.2) 市役所付近域；空地率は30-60%といったところであろうか。残っている建物は、頑丈に作ったとか、基礎を特に頑丈に造ったとか、鉄骨柱を二本増設しておいたとかで建物は傾斜もなく今なお凜と構えている。



(4) コミュニケーション；

(4.1) 市役所周辺にある大規模な食堂「すずらん」で食事をしていると、遊びの達人早川さんが首に「けん玉」をかけていたので、近くにいた復興の職人さん達から声を掛けられた。達人は早速皆様の前で「けん玉」の技を披露し、会話。職員さんは復興住宅新築の仕事で2か月ほど前から高岡(富山県)から珠洲へ通っているという。元気そうで何より。きっと丈夫ないい建物ができることでしょう。

(4.2) 能登町柳田村にある一軒しかない食堂「美好」で、解体屋さんのグループと一緒に食事をした。折角だからと切り出した会話が職人さんの慰労にもなったかのようであった。話の結果から、解体の職人さんは志賀とかいった遠方から来ておられ、近くの空き家を借りて、昼は近く(唯一の)食堂屋さんにて温かい昼食をとり、朝夕は自炊とのことでした。

(4.3) 珠洲市役所付近で被害の無かった家屋の住民との話をしたところ、地震当初は不安な話が多かったが、今ではそれなりに安定した生活であるために、いろんな話をしていただいた。特に、珠洲原発反対で、多く

の方々が立ち上がり、計画を撤回させた、の話が印象的。ただ、今の国や県の復興に関する姿勢を批判する声は無かったが、これは復興を何とかしてもらわないとといった声がたまたま発せられなかっただけのように思う。場所をかえて輪島の医療現場で住民たちの多くが「能登を見捨てる気か」と荒々しく国や県を批判されていた。

(5) 珠洲市の寺院、

(5.1) 文化交流で被災地頑張る；市役所周辺にある乗光寺は、珠洲原発計画に反対の拠点の一つとなり、住民の安全安心のために権力にも立ち向かう開明的な気質の寺院です。今回の地震では、本堂と庫裡にはまったく被害なし。丈夫に作ってあるからとのこと。この寺は富山八尾の聞名寺と連携しており、八尾の「おわら」(五穀豊穡や永世の繁栄を祈願する祭り、300年の歴史)を庫裡にて年一回(と思う)踊るという。珠洲市はもちろん周辺の市町の方々が鑑賞に来られるという。今では震災復興応援の文化交流といった様相をも呈している。



(5.2) 市役所の極付近に西勝寺があった。本堂は2023年の地震で仕口部がダメージを受けていた。原因は住宅仕事の大工が寺院を住宅用施工したため。一応、住職にアドバイスをしようとしたが、その場に関係の大工が居られ自分らでやりますといった雰囲気があったため、アドバイスを断念。次に地震が来たらひとたまりもないと診断していたら、案の定、2024年の地震で寺は完全崩壊となった。こんなことになるなら、何が何でもアドバイスしておくべきだった。いまなお悔やまれる。